

建設機械展示会 / 建築体験フェア 2015・特別講演会

# 日本建築における職人の技

2015年11月4日

阿食 更一郎

# 1 日本建築のはじまり

NO.01

14000年頃		前3世紀頃		3世紀中頃		7世紀頃	
旧石器時代	縄文時代		弥生時代	古墳時代	飛鳥時代		
▲狩猟生活	▲定住化		▲水稻耕作	▲卑弥呼	▲ヤマト王権		
	△上野原遺跡	△夏島貝塚 △三内丸山遺跡	△桜町遺跡 △吉野ケ里遺跡	△麦木晩田遺跡 △青谷上寺地遺跡	△唐古・鍵遺跡 △登呂遺跡	△今城塚古墳	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">縦穴住居</div>  <p>上野原遺跡</p>	 <p>三内丸山遺跡</p>	 <p>吉野ケ里遺跡</p>	 <p>麦木晩田遺跡</p>	 <p>登呂遺跡</p>	 <p>門田貝塚史跡</p>	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">高床建物</div>  <p>三内丸山遺跡</p>	 <p>桜町遺跡</p>	 <p>妻木晩田遺跡</p>	 <p>登呂遺跡</p>		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">物見台</div>  <p>三内丸山遺跡</p>	 <p>吉野ケ里遺跡</p>	 <p>青谷上寺地遺跡</p>	 <p>唐古・鍵遺跡</p>		
			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大型建物</div>  <p>吉野ケ里遺跡</p>	 <p>池上曾根遺跡</p>	 <p>今城塚古墳家型埴輪</p>		

旧石器時代の人々は洞穴、岩かげなどを「住みか」として狩猟を行い、獲物が無くなると新たな獲物を求めて、移動する生活が普通であった。

縄文時代になるとクリ、クルミ、山菜、魚貝などの採取のウエイトが高くなり定住生活が始まった。そこで地面に穴を掘り屋根を架けた「縦穴住居」が生まれた。

**「縦穴住居」が日本建築のはじまりである**

## 2 建築職人のはじまり (1)

NO.02

### 縄文竪穴住居の施工手順

1. 伐木 (石斧)
2. 製材 (丸太の寸法切)
3. 組立
4. 屋根かや葺き



写1 石斧による伐木



写2 丸太の組立



写3 屋根のかや葺き

竪穴住居は家族単位の住居であり、また施工において難しい作業は無く、おそらく家族が自分達で建て、職人は必要ではなかった。

### 弥生大型建物 (祭殿・物見台・豪族居館など) の施工手順

1. 伐木 (鉄斧)
2. 製材・加工
  - ①丸太にクサビを打ち込み半割り
  - ②半割り丸太をヨキではつり柱材・梁材・板材に加工
  - ③柱材に貫穴をノミで穿つ
3. 組立
  - ①地面に穴を掘り柱材を建てる (掘立柱)
  - ②柱から柱へ梁材・貫材を架ける
  - ③梁材に床板を敷く
4. 屋根葺き



写1 鉄斧と石斧の伐木断面



写2 クサビによる半割り

青谷上寺地遺跡 物見台



写3 部材の組立



写4 屋根かや葺



赤色部分が出土

写5 出土柱部材

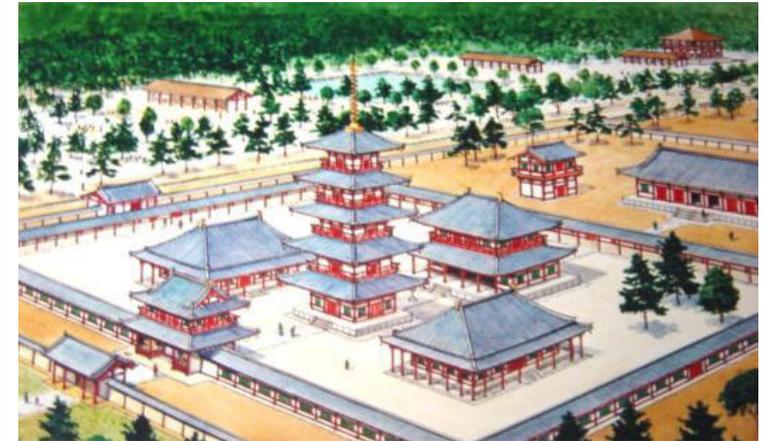
弥生後期以降の大規模の環濠集落では集落のための大型建物が必要となり、また、そのころに鉄製の工具が西日本全域に拡がり、大型木材の伐木・製材・加工が可能になった。その結果、大型建物が生まれた。一方、それらの作業を行うため集落の多くの人々が参加したが、木材に対する専門知識と技量を持つリーダーが必要であった。

弥生大型建物を建てた人々のリーダーが建築職人 **[大工]** の始まりである。

### 仏教伝来

百済から仏教が538年(または552年説)に伝来し、仏像や経典が送られた。日本最初の本格的仏教寺院である飛鳥寺が588年に造営開始され、五重塔が596年に建立され、伽藍が609年に完成したと伝えられている。

仏教寺院の施工は従来の日本建築に比較して格段に難しく、そのため577年には百済から技術者(寺工2名、鑪盤博士1名、瓦博士4名、画工1名)を招き、飛鳥寺は彼らの指導の下で施工された。その後、四天王寺、法隆寺などが建立されたが、現存する最古の寺院建築は689年に再建された法隆寺西院伽藍である。



写1 飛鳥寺伽藍想定図(鎌倉時代に焼失)

### 飛鳥寺の施工手順と職人

1. 地盤工事 仏寺は瓦、漆喰壁などによって従来建築よりかなり重いため、土に石灰や藁などを混ぜ、突き固める版築工法が用いられた。→土工
2. 基壇工事 建物の基礎としての基壇は版築の上に加工石材で構成され、柱下には礎石が設置された。→石工
3. 木工事 柱・梁部材と共に従来建物に無かった斗拱・垂木などの部材を製作したが加工難易度が高く、現地での組立てより多くの手間がかかった。→大工
4. 屋根工事 瓦博士の指導で登り窯によって瓦が製作され日本建築で初めて瓦が屋根に葺かれた。→瓦工
5. 壁工事 外壁・内壁には日本建築で初めて漆喰壁がめられた。→左官
6. 金属工事 鑪盤博士の指導のもと五重塔頂部の相輪(鑪盤は相輪の一部)・屋根四隅の風鐸などが青銅で作られた。→金属工
7. 塗装工事 外部に面する木部材には赤のベンガラや緑の緑青が塗装された。ベンガラには意匠面だけでなく耐久性も向上させる効果もある。→塗装工

飛鳥寺を建立した人々は当時の最先端の知識と技能を持った「**建築職人**」であった。

### 3 古代の職人 (1) 土工の仕事

NO.04

弥生時代になると湿地で水稻耕作が始まり、さらに灌漑・排水方法を考案し集団作業で自然の土地を水田に変え、集落が生まれた。このような集落はより大規模の環濠集落に発展したのもあった。

古墳時代になると強力な地域王権が生まれ、古墳築造を通じて土木技術が進歩した。方位・距離・角度などの測量技術、土の運搬・盛土技術、石の加工・運搬技術などが発達した。

これらの土木技術は飛鳥寺伽藍工事の基盤技術となった。



写真1 環濠集落 (吉野ヶ里遺跡)



写真2 前方後円墳

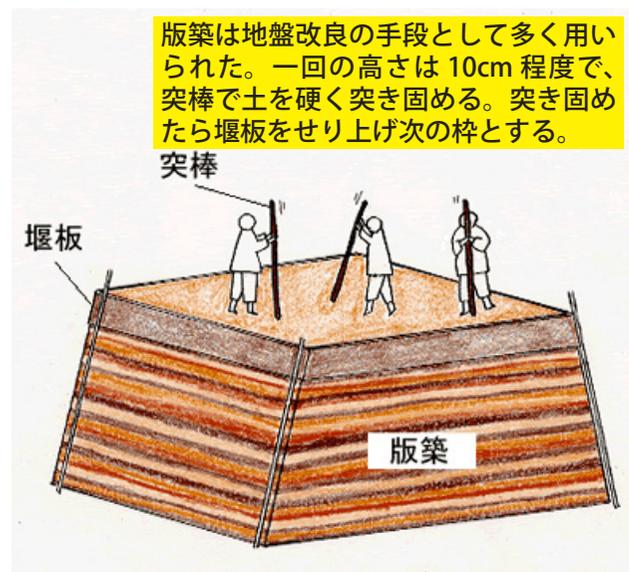


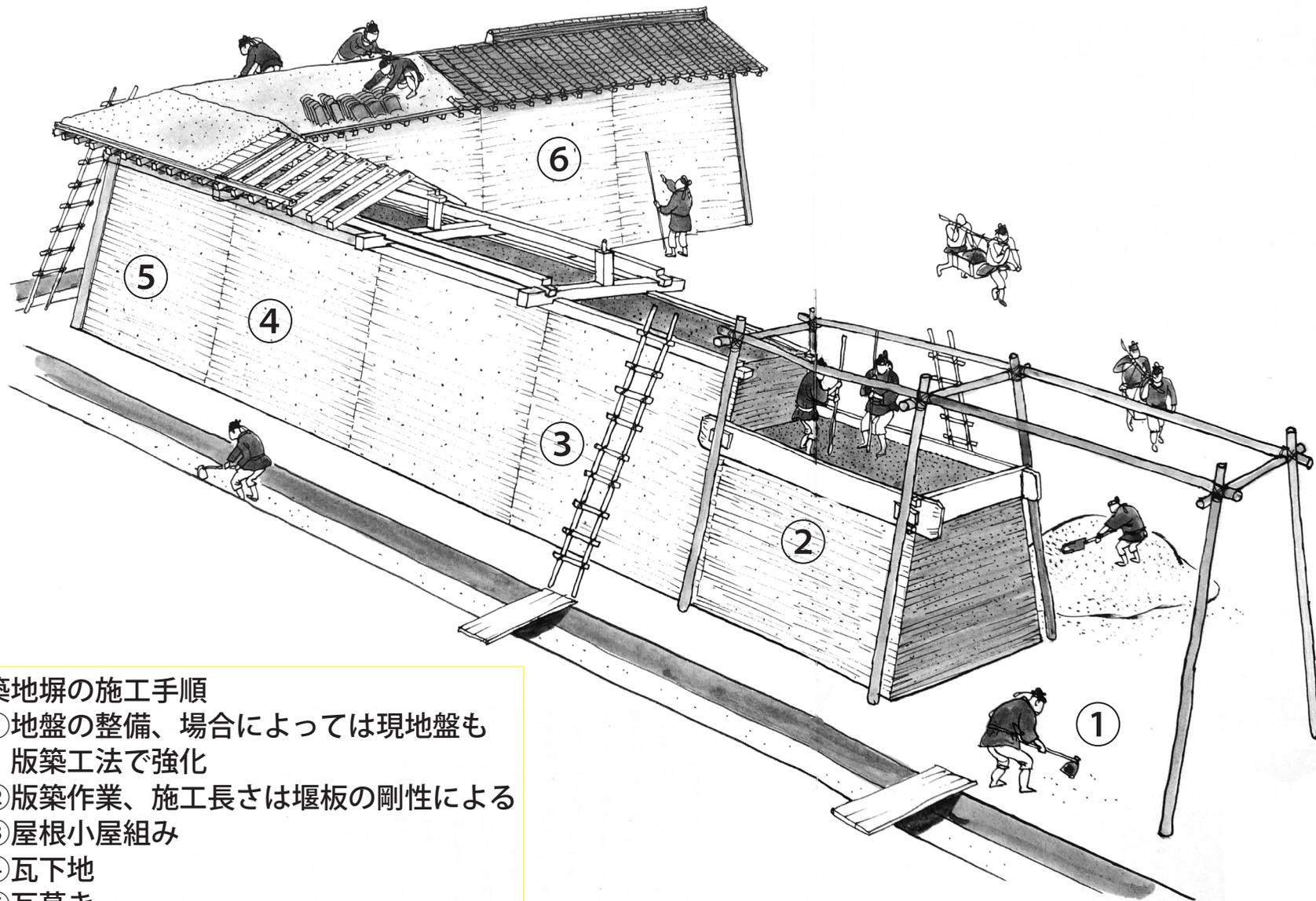
写真3 版築工法



写真4 版築工法 (唐招提寺発掘調査)



写真5 法隆寺の築地堀 (版築工法)



#### 築地塀の施工手順

- ①地盤の整備、場合によっては現地盤も版築工法で強化
- ②版築作業、施工長さは堰板の剛性による
- ③屋根小屋組み
- ④瓦下地
- ⑤瓦葺き
- ⑥築地塀表面仕上げ

出典：「平城京」草思社 1996

### 3 古代の職人 (2) 石工の仕事

NO.05

寺院建築までの日本建築では石材は使用されなかった。

しかし古墳では石室・石棺・葺石などに石材が多用された。一般的にこれらの石材は付近の丘陵や河川から調達されることが多いが、古墳によっては遠方の特定の石材が使用された。特に石棺は加工度が高いため、加工しやすい二上山の白色凝灰岩、播磨の竜山石(流紋岩質凝灰岩)、阿蘇の溶結凝灰岩などが刳りぬき式石棺に使用された。

これらの石材加工技術は飛鳥寺の基壇工事の基盤技術となった。



写真1 葺石 (心合寺古墳)



写真2 石室・石棺 (石舞台古墳)



写真3 飛鳥板蓋宮の石敷遺構



写真4 法隆寺金堂の二重基壇

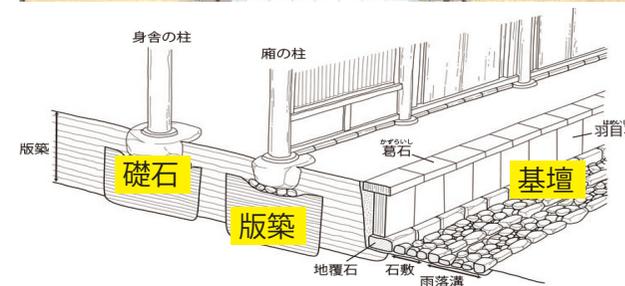


写真5 薬師寺三重塔(東塔)の基壇

### 3 古代の職人 (3) 大工の仕事

NO.06

弥生末期から大工は存在していたが、仏寺は従来の部材に比較して加工難易度が大幅に高まった。そこではヨキ・チョウナ・ノミ・ヤリガンナなどが使われたが、ノコギリ・台ガンナはまだ考案されていなかった。

ヤリガンナは繊維に沿って削り出すすが、台ガンナは仕上げ面は平滑だが繊維が途中で切られるため耐久性に大きな違いが出る。

そのため現在、古建築の復元を行う場合、手間はかかるがヤリガンナで仕上げる事が多くなった。



写真1「春日権現験記」に描かれた建築現場(丸太から板に加工)

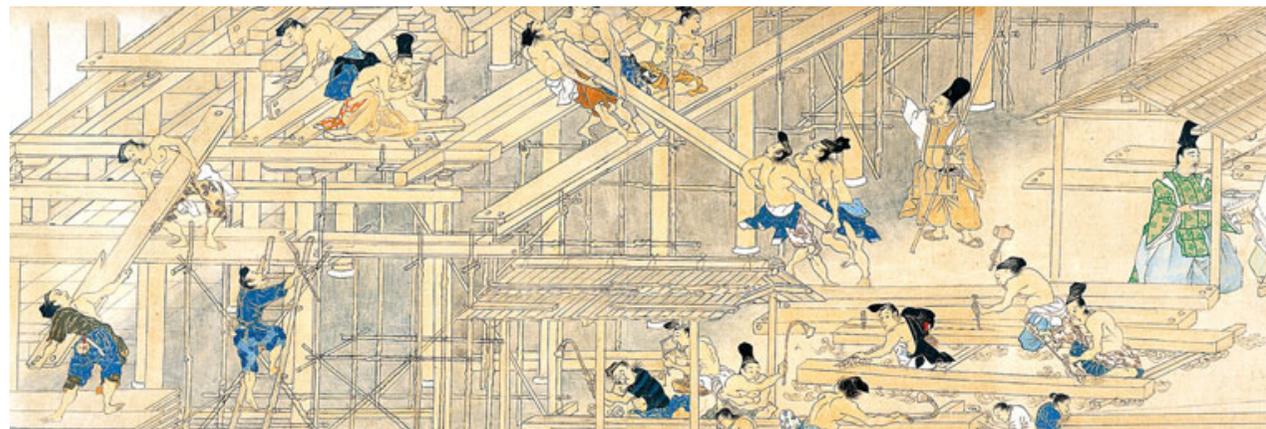


写真2「松崎天神縁起絵巻」に描かれた建築現場(木部材の組立状況)

「春日権現験記」は鎌倉時代後期の1309年頃に描かれた絵巻物で、平安時代の風俗が細かく描かれていることなどから、日本の中世を知る貴重な歴史的資料とされる。

「松崎天神縁起絵巻」は鎌倉時代後期の1311年頃に描かれた絵巻物で、平安時代の947年に菅原道真を祀る北野神社(現北野天満宮)建立の様子を描いている。

飛鳥寺五重塔(596年)の高さは発掘調査から法隆寺五重塔(7c後半)31.5mと同規模とされる。

一方、飛鳥寺五重塔から150年後の750年前後に東大寺伽藍に東西双塔が建立された。それは七重塔で高さが100mあったと伝承されている。

現在、その再建に向けて塔跡の発掘調査が計画されている。

法隆寺  
五重塔



東大寺  
七重塔

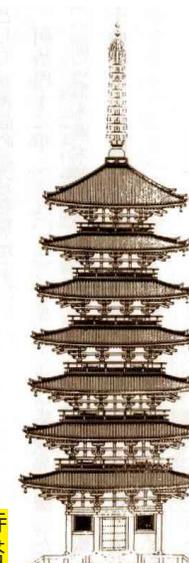
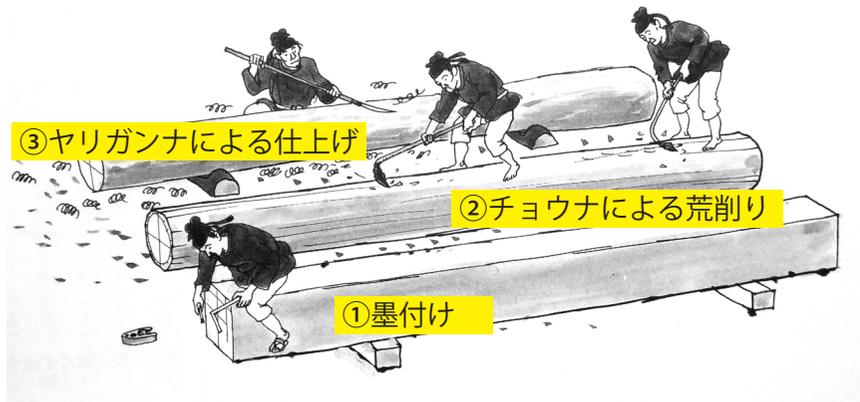


写真3 法隆寺五重塔と東大寺七重塔



丸柱の加工手順



ヤリガンナ



ヤリガンナによる仕上げ作業



ヤリガンナ仕上げの丸柱

### 3 古代の職人 (4) 瓦工の仕事

NO.07

古墳時代には登窯を使って1000度以上の高温で焼成する「須恵器」の生産や、古墳の装飾として墳丘上やその裾部に並べ置かれた「埴輪」の生産が行われており、初めて「瓦」を製作するための基盤技術となった。

飛鳥寺は平城京に都が移った際に名も元興寺と改め、建造物の一部や瓦も平城京に移された。昭和30年代にこの元興寺の極楽坊本堂の解体修理が行われ、飛鳥寺創建時の瓦が約170枚も使われて1400年にもわたって現役であり続けていたことが判明した。



瓦当は蓮華の花を文様化

写真1 飛鳥寺の発掘軒丸瓦



写真2 元興寺極楽坊本堂



家型埴輪

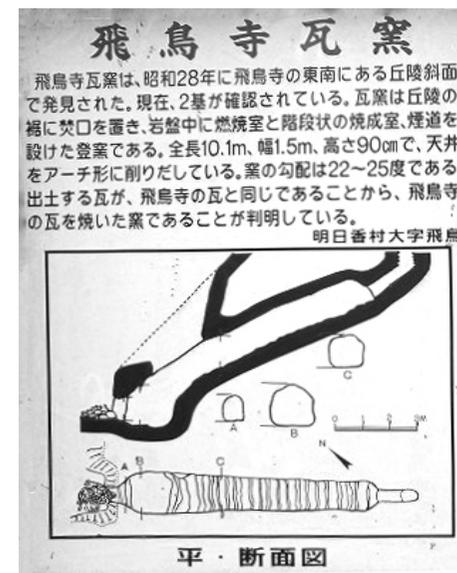
写真3 今城塚古墳の埴輪(復元)



登窯跡

登窯上屋復元

写真4 新池遺跡(今城塚古墳の埴輪製作登窯)



**飛鳥寺瓦窯**  
飛鳥寺瓦窯は、昭和28年に飛鳥寺の東南にある丘陵斜面で発見された。現在、2基が確認されている。瓦窯は丘陵の裾に焚口を置き、岩盤中に燃焼室と階段状の焼成室、煙道を設けた登窯である。全長10.1m、幅1.5m、高さ90cmで、天井をアーチ形に削りだしている。窯の勾配は22～25度である。出土する瓦が、飛鳥寺の瓦と同じであることから、飛鳥寺の瓦を焼いた窯であることが判明している。  
明日香村大字飛鳥

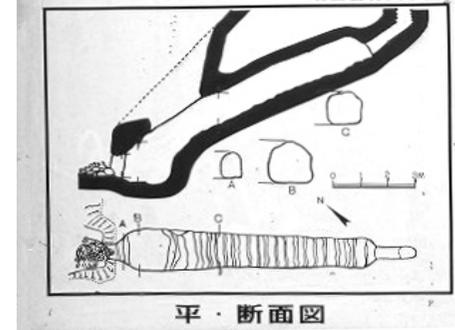


写真5 飛鳥寺の瓦製作登窯

人々が暮らす竪穴式住居における、「土壁」が左官工事の始まりである。土は最も手に入れやすい材料で、土を団子状に丸めて積み上げ、仕上げていたと思われる。このような土壁は専門的な知識を要するものではなかった。

仏寺の「漆喰壁」は飛鳥寺が初めての施工であったが、百濟からの技術者の「画工(壁画)」または「寺工(棟梁)」から指導を受けたと考えられる。

漆喰壁がどのような鏝で塗られたかは不明であるが、近くの石神遺跡で7世紀の木鏝が発見されている。

## 国内最古の土壁遺構か

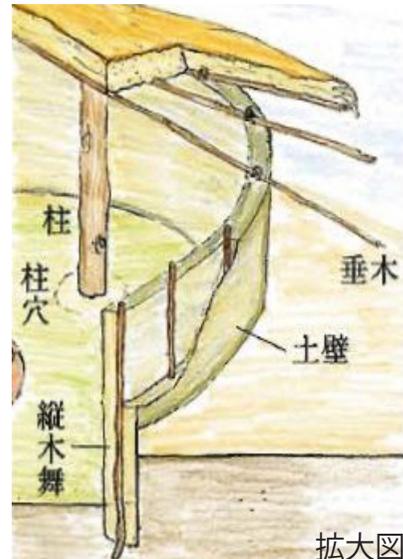
01.03.03産経

泉南「男里遺跡」から出土

大阪府南河内郡の「男里遺跡」から、弥生中期後半、高度な技術で築かれた土壁の遺構が出土した。この土壁は、土を団子状に丸めて積み上げたもので、国内最古の土壁遺構と見られる。出土した土壁の断面は、厚さ約10センチ、高さ約1メートルあり、表面は比較的平滑で、内部には木製の柱や横木が埋め込まれている。この遺構は、弥生中期後半の住居や倉庫の壁に使用されていたと考えられる。



弥生中期後半、高度な技術  
大阪府南河内郡の「男里遺跡」から、弥生中期後半、高度な技術で築かれた土壁の遺構が出土した。この土壁は、土を団子状に丸めて積み上げたもので、国内最古の土壁遺構と見られる。出土した土壁の断面は、厚さ約10センチ、高さ約1メートルあり、表面は比較的平滑で、内部には木製の柱や横木が埋め込まれている。この遺構は、弥生中期後半の住居や倉庫の壁に使用されていたと考えられる。

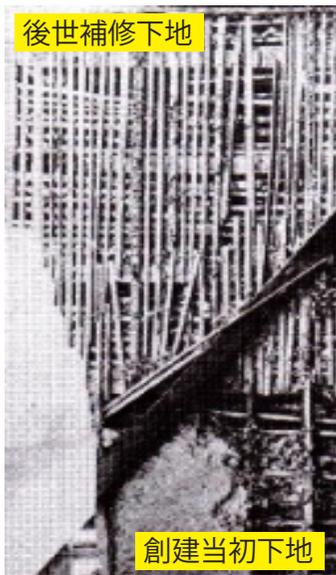


拡大図



写真2 壁立ち竪穴式住居

写真1 国内最古の土壁遺構 (2001.03.03 産経)



- ①壁の下地は檜割材の横木舞・縦木舞を藤蔓でしぼる。
- ②壁土は粘土質の土に藁を粗く切って混ぜて塗付け、更に反対側から裏返し塗をした下塗を以て壁の主体とする。
- ③第二層の中土は荒土に比べてやや砂質の土を使用し、粉殻や麻の繊維を混ぜている。
- ④第三層にあたる表土は細砂質の土で白土、硅砂、植物性雑繊維のスサである。

写真3 法隆寺金堂の壁下地



写真4 石神遺跡出土の木鏝 (7世紀頃)



写真5 法隆寺金堂内壁画 (1949年焼損)

# 国内最古の土壁遺構か

01.03.03産経

## 泉南「男里遺跡」から出土

### 弥生中期後半、高度な技術

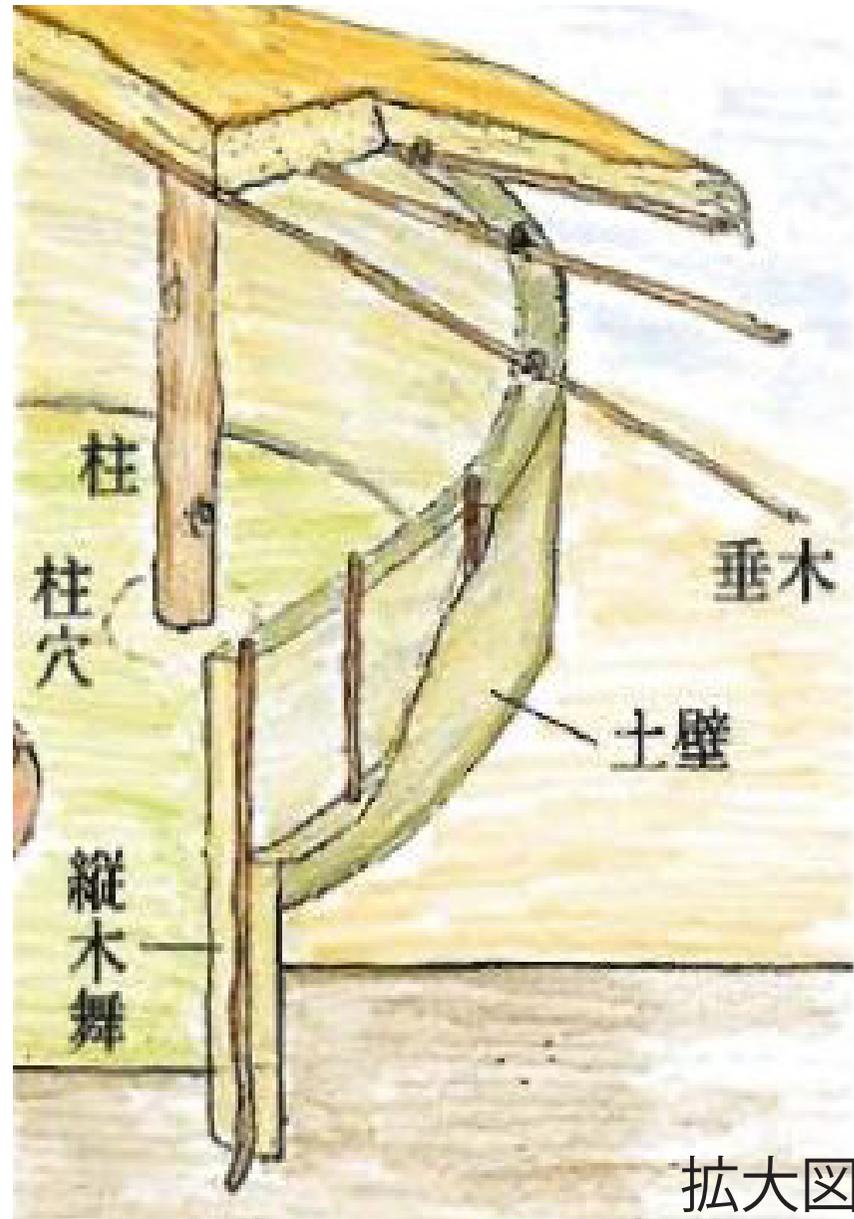
■男里遺跡 大阪府南部の泉南市男里、馬場、幡代に位置する縄文時代後期から中世にかけての複合遺跡。遺跡の規模は約一・三キロ四方と推定される。昭和五年に遺物が発見されたことが契機となっており、調査が行われ、弥生土器や石器などが確認された。これまでの調査成果では、泉南地域の弥生時代集落としては最大クラスで、大阪・泉州北部の大規模環濠（かんこう）集落「池上曾根遺跡」のような拠点集落だったと考えられる。

大阪府泉南市の「男里（おのさ）遺跡」から、周囲に土壁をめぐらせていたと推測できる弥生時代中期後半（約二千年前）の竪穴建物の遺構が出土していることが二日、分かった。唐古・鍵遺跡（奈良県田原本町）からは弥生前期の土壁の一部とみられる遺物が発見されているが、同時代の土壁建築の存在を裏付ける遺構が出たのは初めて。調査を進める府文化財調査

研究センターは「弥生期のこの遺構は、直径約九分の建物の上部構造を考察する上で、高度な技術を有していたことをうかがわせる第一級の発見」としている。遺構が見つかったのは、集落の居住域（南北約三百メートル、東西二百メートル）から検出された十一棟の竪穴建物跡のうちの一カ所。同センターによると、集落の南半部で発見された竪穴建物1は、直径約八分の一、長さ約九分の一、幅約四分の一の大型建物。及ぶ隅丸方形の大型建物。

この遺構は、直径約九分の大きな竪穴を掘って内側約五十分分の土を入れ替えたうえで、円形の壁溝（へきこう）を築造。壁溝内では、直径約四分の自然木の杭（くい）を約三十一、四十センチ間隔で打ち込んでいた。また、直径八・九分の大型竪穴建物二棟（竪穴建物2・3）でも、壁溝に木杭（もっこ）を打ち付けた痕跡が確認された。木杭を縦木舞（たてこま

いと考えた場合、壁溝に沿って土壁が立っていたという推測が成立。板材などを固定する支柱と考えた場



拡大図

### 3 古代の職人 (6) 金属工の仕事

NO.09

青銅器が日本に伝わったのは紀元前2世紀ごろであり、生産もその後すぐおこなわれた可能性が高い。主な青銅器は、鏡・矛・剣などの武器類と銅鐸、やりがんな等である。

銅鐸作りには鋳型が必要であるが、古墳時代にはかなり進歩しており仏寺のシンボルである「相輪」の露盤・伏鉢・宝輪・水煙などの部品を製作することは難しいことではないと思われる。

なお、飛鳥寺の飛鳥大仏(釈迦如来坐像)の仏頭と右手は創建当時のものである。



写真2 薬師寺東塔の水煙



写真1 淡路島で発見された銅鐸(弥生前期)



写真3 薬師寺東塔の露盤

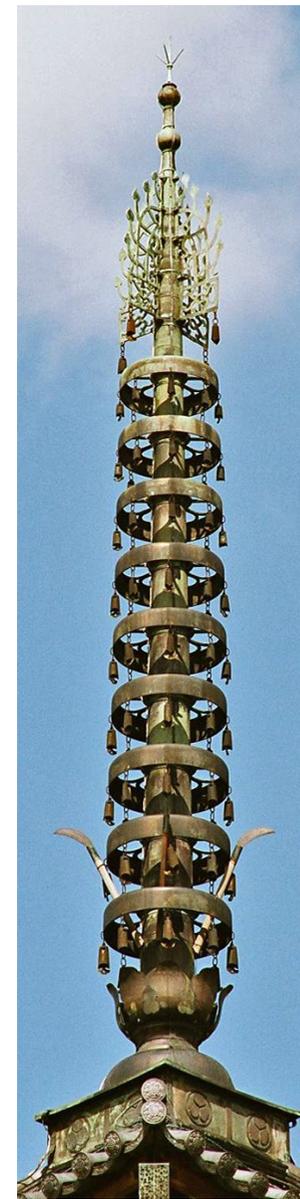
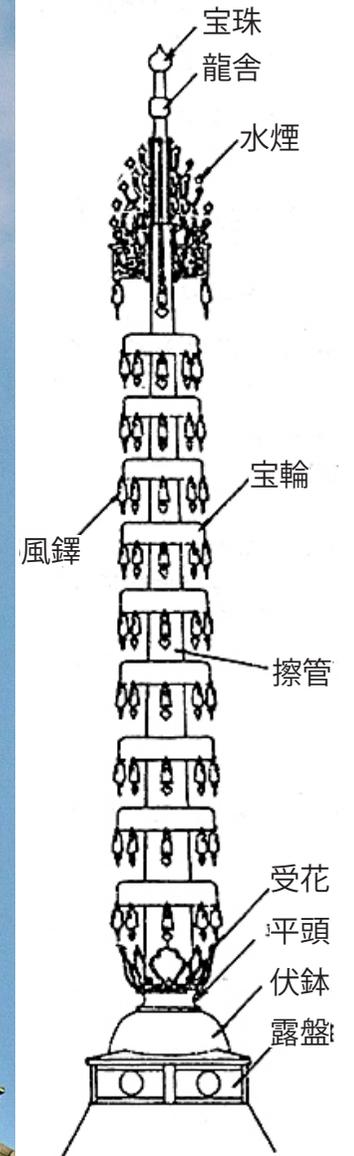


写真4 法隆寺五重塔相輪(高さ 10.3m)



### 3 古代の職人 (7) 塗装工の仕事

NO.10

古墳時代までに使われた塗料のうちその多くがベンガラである。ベンガラの製造法は比較的簡単で、鉄分を含む黄土を焼いて作った。ベンガラ等の赤色は神聖なもので、「魔除け」や「死者の復活」を願う意味があり、土偶や石棺に塗られた例が多い。

建築に塗装がされたのは仏寺の建立からと思われる。中国、朝鮮半島を伝った仏寺は柱・梁・組物にベンガラ、連子窓には孔雀石からつくった緑青を膠で溶いて塗布された。

創建時の飛鳥寺は、壮大で色彩豊かにして華麗な建造物であった。



写真1 遮光器土偶 (大芦遺跡 - 縄文晩期)



写真2 石棺に塗られたベンガラ



写真3 柱・梁・組物の塗布 (大極殿)



写真4 薬師寺西塔 (1981)



写真5 薬師寺講堂 (2003年再建)

### A 寺院

- 1 法隆寺五重塔
- 2 東大寺大仏殿

### B 城（天守）

- 1 姫路城天守
- 2 彦根城天守
- 3 松本城天守
- 4 松江城天守

### C 神社・その他

- 1 日光東照宮陽明門
- 2 大滝神社
- 3 妙喜庵待庵
- 4 桂離宮

### D 洋風建築・その他

- 1 日本銀行本館
- 2 迎賓館赤坂離宮
- 3 旧函館区公会堂
- 4 西本願寺伝道院
- 5 東京駅丸の内駅舎
- 6 中之島公会堂
- 7 国会議事堂
- 8 伊豆の長八美術館

# A-1 法隆寺五重塔

NO.12

## 概要

分類	寺院
建築地	奈良県生駒郡斑鳩町
建築主	法隆寺
竣工	飛鳥時代 7世紀後半
形式	仏塔
構造	木造
高さ	31.5m
直近の 修復工事	昭和の大修理 昭和9年～昭和60年
特記	現存世界最古の木造建築
	国宝 ユネスコ世界遺産



# A-1 法隆寺五重塔

NO.13



写真1 五重塔詳細

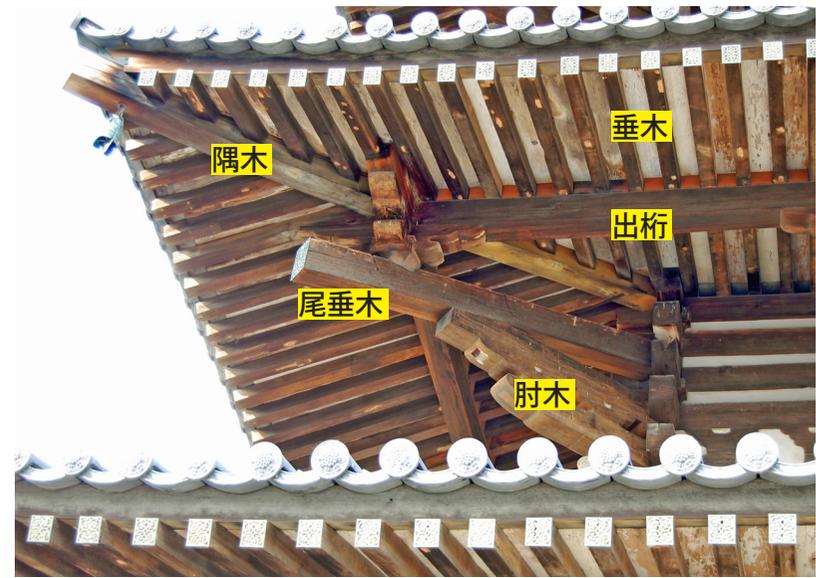


写真2 隅木まわりの納まり



写真3 軒丸瓦・軒平瓦と垂木小口飾り



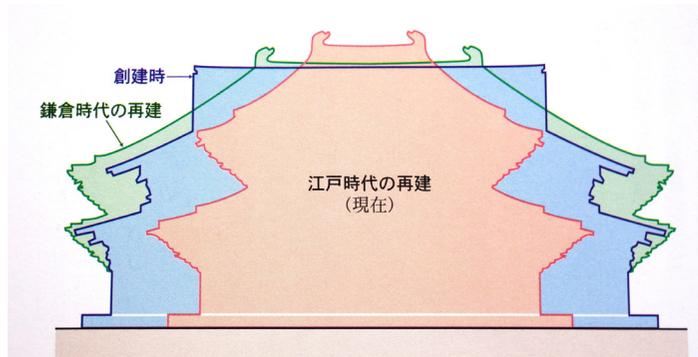
写真4 初重の屋根を支える力士像(江戸時代)

# A-2 東大寺金堂（大仏殿）

NO.14

## 概要

分類	寺院
建築地	奈良県奈良市
建築主	聖武天皇
竣工	創建 奈良時代 天平宝字 2 年 (758 年) 再建 鎌倉時代 建久 6 年 (1195 年) 再々建 江戸時代 宝永 6 年 (1709 年)
形式	寄棟造一重裳階付
構造	木造・高さ 49.1 m
直近の修復工事	昭和の大修理 (屋根) 昭和 48 年 ~ 昭和 55 年
特記	現存世界最大の木造建築
	国宝 ユネスコ世界遺産



創建・再建時 間口 11 間 (85.8m)  
再々建 (現状) 間口 7 間 (57.5m)



写真 1 東大寺創建 (758 年) 時の模型



写真 2 平重衛の焼討 (1180 年) 前の東大寺絵図



写真 3 大仏殿落慶供養図・江戸宝永 6 年 (1709 年)



写真 4 明治 5 年に撮影された東大寺大仏殿

# B-1 姫路城天守

NO.16

## 概要

分類	平山城
建築地	兵庫県姫路市
形式	望楼型 5重6階地下1階
天守建造年	江戸時代 慶長6年(1601年)
築城者	播磨姫路藩 初代藩主 池田輝政
棟梁	桜井源兵衛
高さ	石垣 14.9m 建物 31.5m 計 46.4m
直近の 修復工事	平成修理 平成22年～平成27年
特記	国宝 ユネスコ世界遺産
姫路城全体	国宝 8棟 重要文化財 74棟





曲輪とは石垣や土塁と濠で囲まれた部分

写真 1 姫路城主が居住した内曲輪



写真 2 姫路城の軸組構造模型 (1/20)



写真 3 天守 5 階



写真 4 天守 1 階



写真1 真柴久吉公播州姫路城郭築之図 歌川貞芳  
現在の姫路城以前に秀吉が毛利攻撃のため構築した城があった。天守は三層で当時としては安土城に次ぐ大規模であった。図は羽柴秀吉(図は江戸時代に描かれ、徳川期であるため仮名で真柴久吉)が最上部で采配し天守を築造している場面が描かれている。

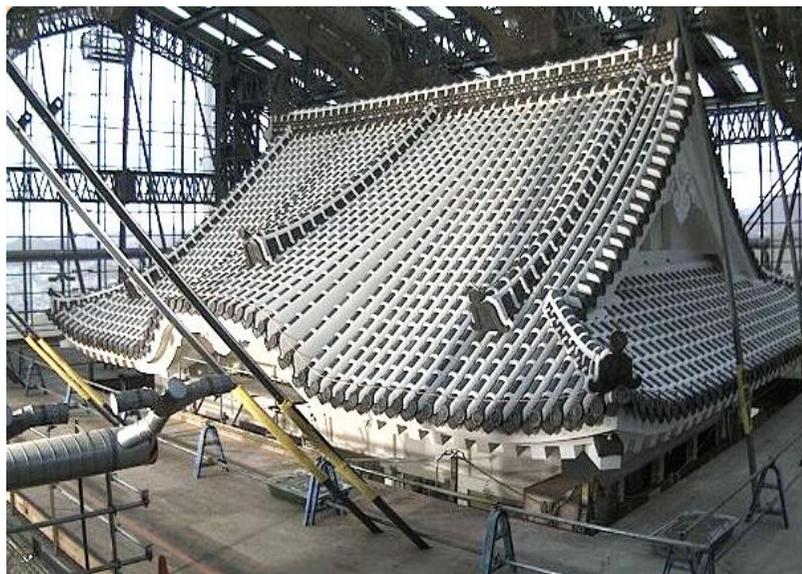


写真3 平成修理・完成した屋根



写真2 平成修理・漆喰壁下地



写真4 平成修理・完成した破風懸魚漆喰塗

## B-2 彦根城天守

NO.19

### 概要

分類	平山城
建築地	滋賀県彦根市
形式	望楼型 3重3階地下1階
天守建造年	江戸時代 慶長9年(1604年)
築城者	近江佐和山藩(彦根藩) 二代藩主 井伊直継
棟梁	浜野喜兵衛
高さ	石垣 4.4m 建物 16.3m 計 20.7m
直近の 修復工事	平成修理 平成5年～平成8年
特記	国宝





写真1 天守の火灯窓（上枠を火炎形造った特殊な窓）



写真2 天守内部小屋組構造



写真3 牛蒡積み（奥行きのある石を使用）の石垣



写真4 天守内部

## B-3 松本城天守

NO.21

### 概要

分類	平城
建築地	長野県松本市
形式	望楼型 5重6階
天守建造年	江戸時代 慶長6年(1601年)
築城者	信濃松本藩 初代藩主 石川 数正 二代藩主 石川 康長
棟梁	不明
高さ	石垣 4.4m 建物 25.0m 計 29.4m
直近の 修復工事	昭和の大修理 昭和25年～昭和30年
特記	国宝





写真1 松本城の虎口 (城郭における出入り口)



写真2 土塁の遺構



写真3 黒漆塗下見板と初重の石落し



写真4 天守内部

## B-4 松江城天守

NO.23

### 概要

分類	平山城
建築地	島根県松江市
形式	望楼型 4重5階地下1階
天守建造年	江戸時代 慶長16年(1611年)
築城者	出雲松江藩 初代藩主 堀尾忠氏
棟梁	稲葉覚之丞
高さ	石垣 7.0m 建物 22.4m 計 29.4m
直近の 修復工事	昭和の大修理 昭和25年～昭和30年
特記	国宝





写真 1 天守の下見板張り・石落しは第二層



写真 2 天守内部



写真 3 天守内部構造



写真 4 天守柱材詳細 ( 細い木材を束ねている )

# C-1 日光東照宮陽明門

NO.25

## 概要

分類	神社楼門
建築地	栃木県日光市
建築主	第3代将軍 徳川家光
竣工	江戸時代 寛永13年(1636年)
形式	2層3間入母屋屋根
棟梁	甲良宗広
高さ	棟高約11m
直近の 修復工事	昭和大修理事業 昭和25年～昭和61年
特記	国宝 ユネスコ世界遺産
日光東照宮 全体	国宝8棟 重要文化財34棟





写真1 陽明門正面「東照大権現」の勅額



写真2 陽明門東面



写真3 眠り猫 (東回廊の奥宮入口) 左甚五郎作



写真4 三猿 (神厩舎) 作者不詳

## C-2 大滝神社

NO.27

### 概 要

分類	本殿と拝殿を連結した複合社殿
建築地	福井県越前市
建築主	五箇村
竣工	江戸時代 天保 14 年 (1843 年)
形式	本殿 一間社流造 拝殿 入母屋造り
棟梁	永平寺棟梁 大久保 勘左衛門
特記	重要文化財



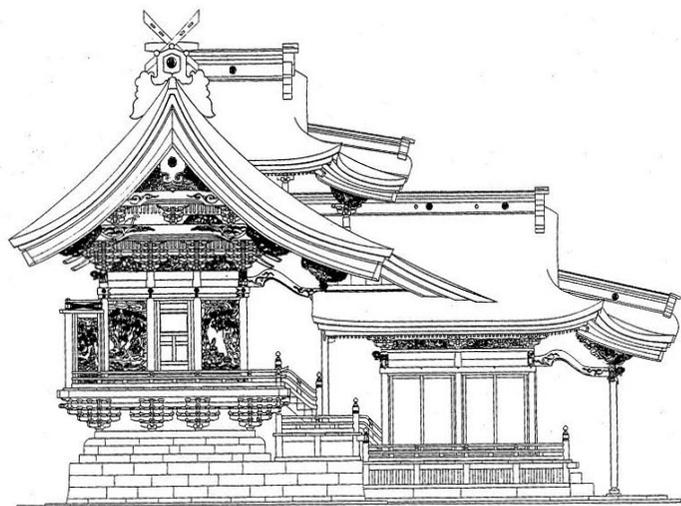


写真1 複合社殿(本殿:左・拝殿:右)



写真2 拝殿正面



写真3 本殿側面の彫刻



写真4 拝殿正面の彫刻

# C-3 妙喜庵待庵

NO.29

概 要	
分類	茶室
建築地	京都府乙訓郡大山崎町
建築主	羽柴 秀吉
竣工	安土桃山時代 天正 10 年 (1582 年)
作者	千 利休
形式	切妻造柿葺き
特記	国宝



待庵平面図



写真1 茶室の入り口 (にじり口)



写真2 にじり口からの床



写真3 土で塗りまわした「室床 (むろどこ)」

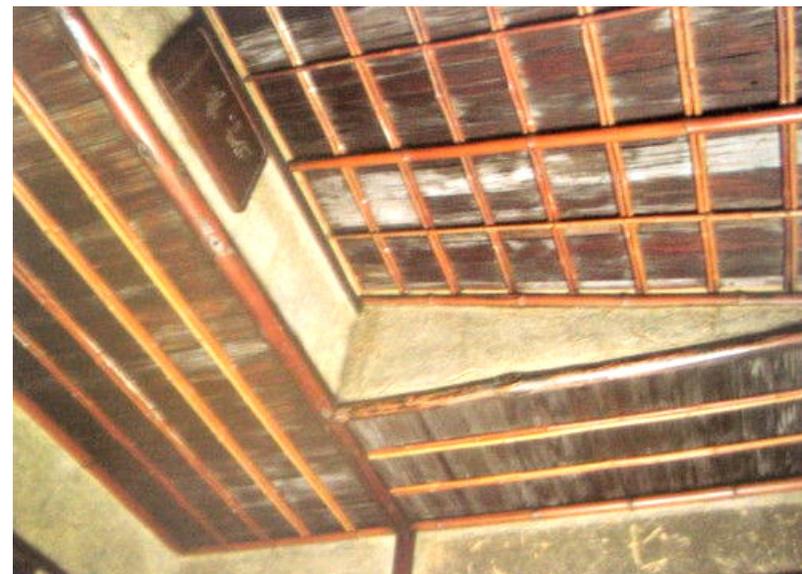


写真4 天井の竿縁や垂木などには竹を使用

# C-4 桂離宮

NO.31

## 概要

分類	離宮
建築地	京都市西京区
建築主	八条宮(智仁親王)
竣工	書院群 江戸時代 元和初年(1615年)頃
形式	入母屋造り柿葺き
高さ	古書院・棟高 7.5m
直近の 修復工事	昭和大修理 昭和51年～昭和57年
特記	



書院群(左より新御殿・楽器の間・中書院・古書院)



写真1 新御殿 (下部は白漆喰パラリ仕上げ)



写真2 月波楼の柿葺き



写真3 松琴亭の青と白の市松模様襖



写真4 古書院の月見台

# D-1 日本銀行本館

NO.33

## 概要

分類	事務所
建築地	東京都中央区
建築主	日本銀行
竣工	明治 29 年 (1896 年 )
設計	帝国大学工科大学教授 辰野 金吾
施工	直営方式
構造・階数	石造及び煉瓦造 地上 3 階地下 1 階
延床面積	約 11,000m <sup>2</sup>
特記	重要文化財



上空写真「円」の字型

明治 23 年 (1890)9 月の状況



明治 28 年 (1895)8 月の状況



写真 1 工事中の写真 (貨幣博物館資料)



写真 2 外装 1 階に花崗岩 2 階と 3 階に安山岩

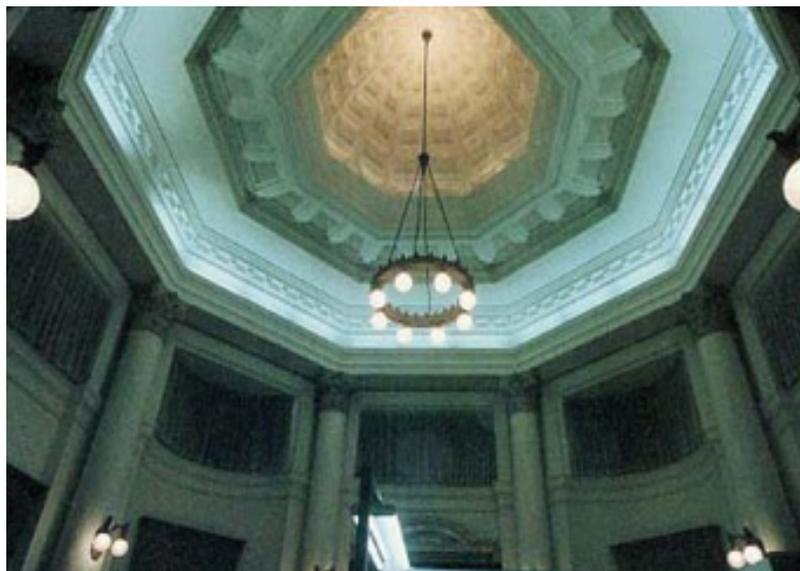


写真 3 史料展示室ドーム (日銀 HP より)

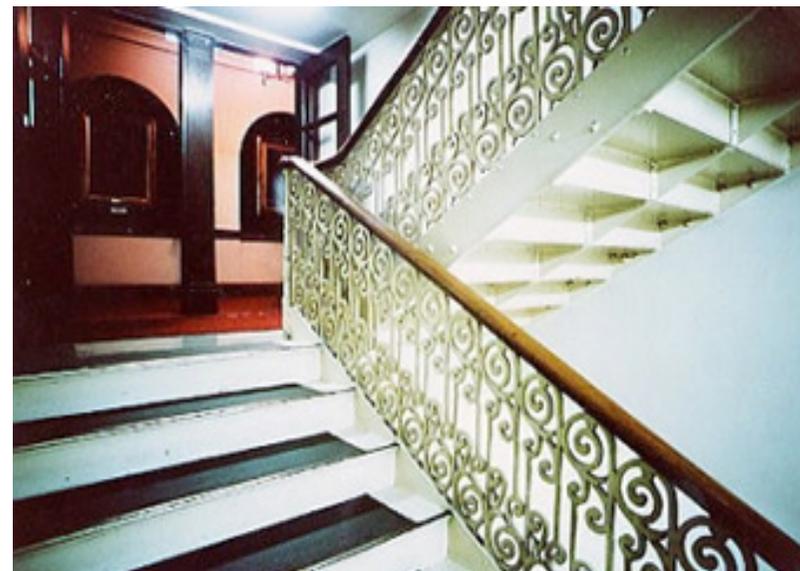


写真 4 英国から輸入した鉄製階段 (日銀 HP より)

## D-2 旧東宮御所（迎賓館赤坂離宮）

NO.35

### 概 要

分類	離宮
建築地	東京都港区
建築主	宮内省
竣工	明治 42 年 (1909 年)
設計	宮内省東宮御所御造営局 技監 片山 東熊
施工	直営方式
構造・階数	鉄骨補強煉瓦石造 地上 3 階地下 1 階
延床面積	約 15,000m <sup>2</sup>
改修工事 竣工	平成 20 年 (2008 年)
特記	国宝 (明治以降の建築としては初めて指定)





し道深に外海を師技の門尊に殊は計設の築建てしに所御の營新なる麗宏しけ告を工建築大年一十四活明に愛て經を年敷拾營創御  
みのすか驚を目以てしと物造建の一第内画はとるせ盡りれ至の美善て以をるせ用應と衛美の有固却本ら旁し機を風歐の式新に大

写真1 竣工直後の写真



写真2 朝日の間（国・公賓用のサロンとして使用）



写真3 朝日の間の天井絵画（ペルツ作）



写真4 羽衣の間（レセプションや会議場等として使用）

# D-3 旧函館区公会堂

NO.37

## 概要

分類	集会施設
建築地	北海道函館市
建築主	函館区(現函館市) (相馬 哲平の寄付)
竣工	明治 43 年 (1910 年)
設計	函館区技師 小西 朝次郎
施工	棟梁 村木 甚三郎
構造・階数	木造・地上 2 階
延床面積	1,761.3m <sup>2</sup>
解体修理 復元完成	昭和 57 年 (1982 年)
特記	重要文化財





写真1 二階のバルコニー



写真2 二階の大広間

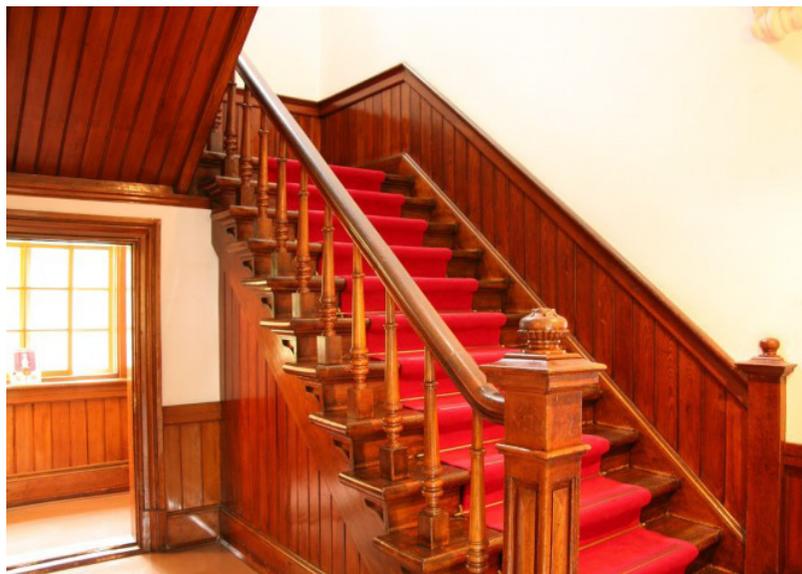


写真3 階段

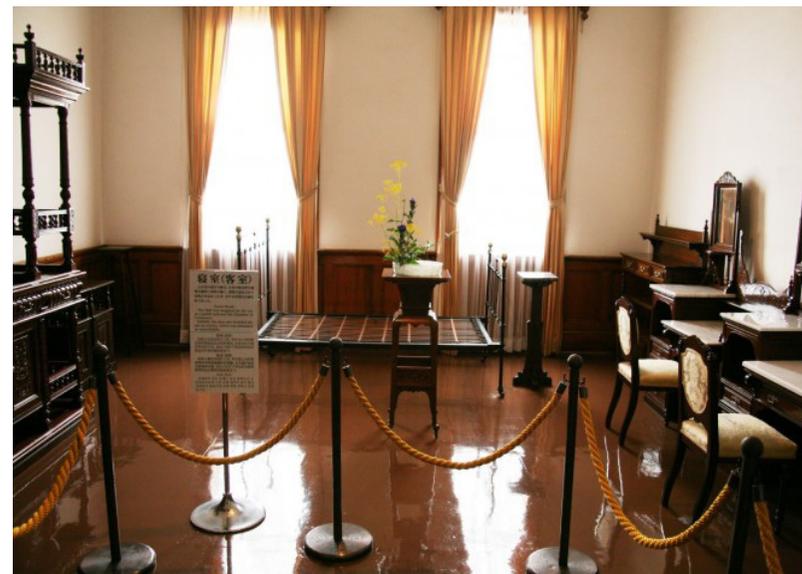


写真4 貴賓室

# D-4 西本願寺伝道院

NO.39

## 概要

分類	寺院(伝道場)
建築地	京都市下京区
建築主	浄土真宗本願寺派 西本願寺
竣工	明治45年(1918年)
設計	伊東 忠太
施工	元施工・保存再生 竹中工務店
構造・階数	煉瓦造 地上3階
延床面積	912m <sup>2</sup>
保存・再生 工事竣工	平成23年(2011年)
特記	京都市指定文化財



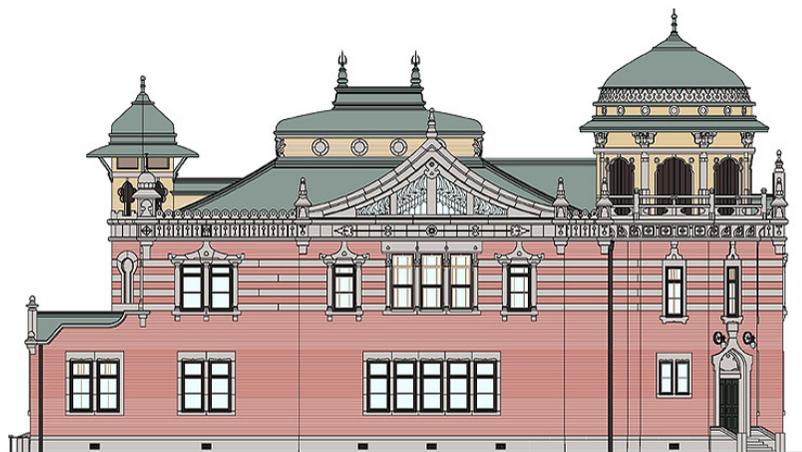


写真1 立面図

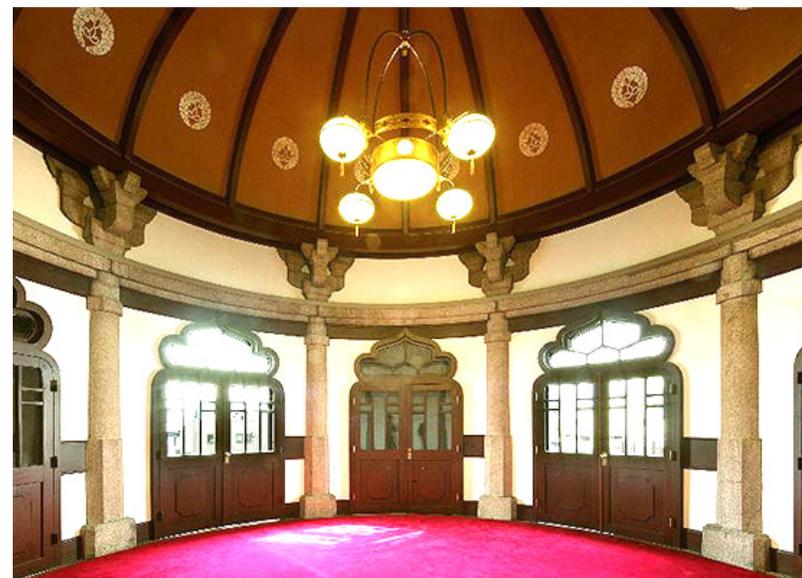


写真2 八角ドーム (3F) 内部

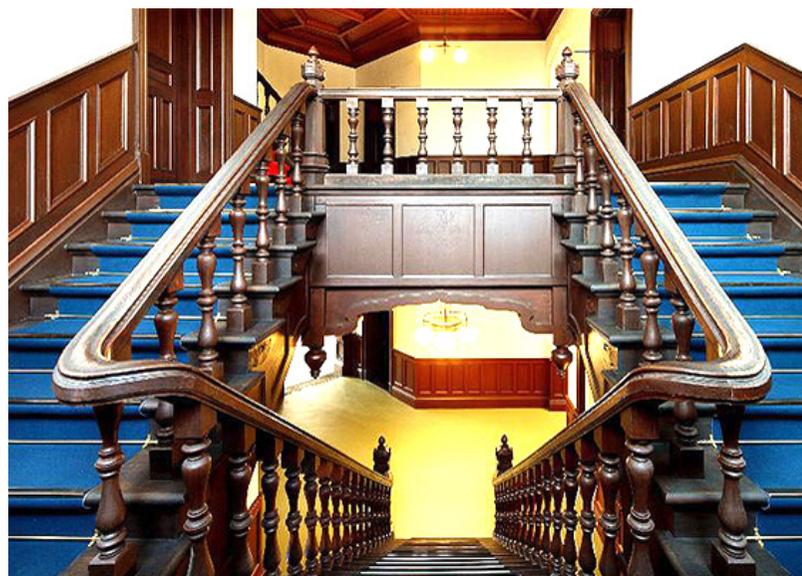


写真3 階段



写真4 玄関



写真5 編さん室 (2F)

# D-5 中央停車場（東京駅丸の内駅舎）

NO.41

## 概要

分類	駅舎
建築地	東京都千代田区
建築主	鉄道院
竣工	大正 3 年 (1914 年)
設計	辰野片岡事務所 辰野 金吾
施工	大林組
構造・階数	鉄筋レンガ造 地上 3 階地下 1 階
延床面積	53,464m <sup>2</sup>
復原工事 竣工	平成 24 年 (2012 年)
特記	重要文化財

写真 1 竣工当時の絵はがき・大正 3 年 (1914 年)



写真 2 復原工事竣工・平成 24 年 (2012 年)



# D-5 中央停車場（東京駅丸の内駅舎）

NO.42

明治44年(1911)の状況



大正3年(1914)の状況



写真1 工事写真



The Tokyo Station; Railway Center in Japan 観望の驛京東関玄大の都帝(京東大)

写真2 竣工当時の絵はがき(2)

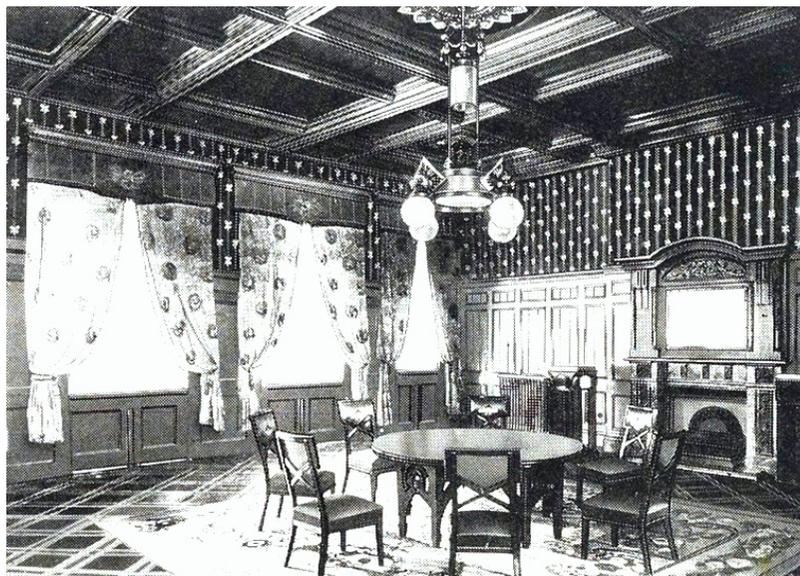


写真3 竣工当時の貴賓室



写真4 復原されたドーム内部天井

# D-6 大阪市中央公会堂 ( 中之島公会堂 )

NO.43

概 要	
分類	集会施設
建築地	大阪市北区
建築主	大阪市 ( 岩本 栄之助の寄付 )
竣工	大正 7 年 (1918 年)
設計	原案 岡田 信一郎 実施設計 辰野 金吾
施工	直営工事
構造・階数	鉄骨煉瓦造 地上 3 階地下 2 階
延床面積	8,425m <sup>2</sup>
保存・再生 工事竣工	平成 14 年 (2002 年)
特記	重要文化財





写真 1 大集会室



写真 2 特別室ステンドグラス



写真 3 小集会室



写真 4 特別室 ( 創建当時の貴賓室 )

# D-7 国会議事堂

NO.45

## 概要

分類	議事堂
建築地	東京都千代田区
建築主	大蔵省宮繕管財局
竣工	昭和 11 年 (1936 年)
設計	大蔵省臨時議院建築局
施工	非公開
構造・階数	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上 3 階地下 2 階 中央塔 9 階
延床面積	53,464 m <sup>2</sup>
高さ	中央塔 65.45m
特記	左側衆議院、右側参議院 中央棟の所管は参議院





写真 1 参議院議場



写真 2 参議院議長応接室



写真 3 中央広間

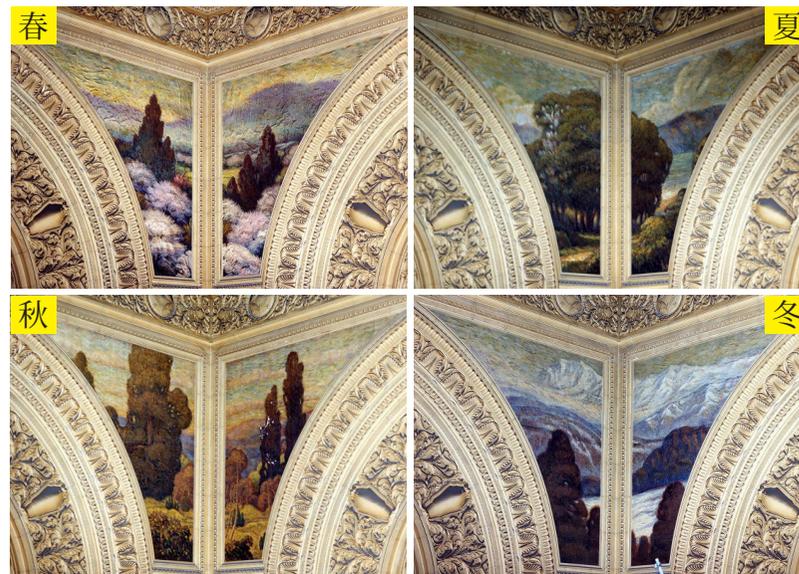


写真 4 中央広間の壁画

# D-8 伊豆の長八美術館

NO.47

## 概要

分類	美術館
建築地	静岡県賀茂郡松崎町
建築主	静岡県
竣工	昭和 59 年 (1984 年 )
設計	早稲田大学教授 石山 修武
施工	竹中工務店
構造・階数	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部 2 階建
延床面積	434.9m <sup>2</sup>
特記	1985 年 第 10 回吉田五十八賞
入江長八	文化 12 年 (1815) 生 明治 22 年 (1889) 没





写真 1 二階ホール天井の漆喰鏝絵「天女」



写真 2 漆喰鏝絵「龍」

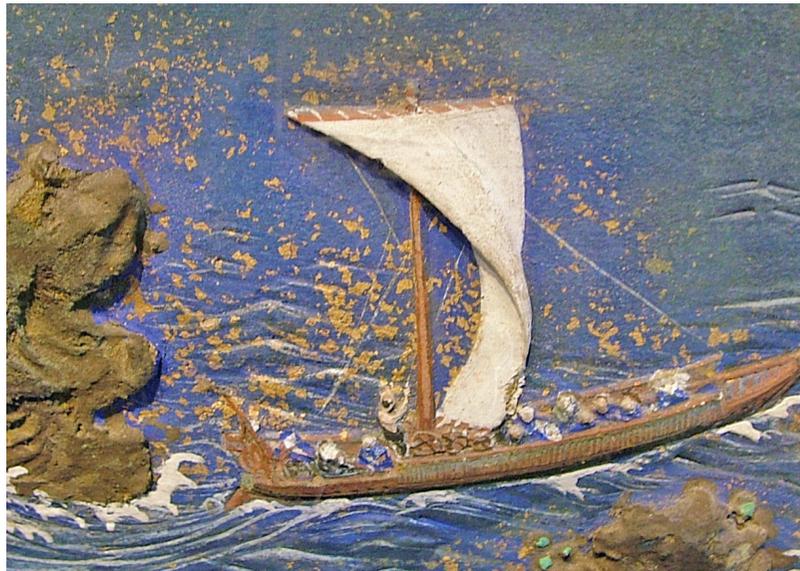


写真 3 漆喰鏝絵



写真 4 松崎町名物「なまこ壁」

